

結核の早期発見に向けた地域づくり	
北多摩南部保健医療圏	
実施年度	開始 平成24年度 終了 平成26年度
背景	当圏域における平成22年新登録結核患者数は198名で、うち153名が医療機関で診断されていた。これら患者の診断に至る過程を分析すると、初診から診断に至るまでに1ヶ月以上要した割合 (doctor's delay) は27.6%と、全国平均22.6%、都平均20.2%と比べて高く、さらに、発病から結核と診断されるまでに3か月以上要した割合も27.0%と、全国平均19.6%及び都平均22.0%と比較し高かった。 結核の感染拡大防止を図るためには、結核の発見の遅れを改善することが必要であり、早期受診、早期診断に向けて住民及び医療機関への働きかけが重要である。
目標	1. 結核の早期発見に向けた課題を明らかにする。 2. 結核の診断過程の現状と課題を明らかにする。 3. 結核の早期診断につながるツールを作成する。
事業内容	1. 運営委員会の設置（平成24年～26年） 地域の課題を共有し、結核の早期発見に向けた地域づくりを目指すため地域の関係者と協議する場を確保した。運営委員会は年1回開催した。 2. 結核患者の現状分析（平成24年） 管内の結核患者の現状を既存資料から分析、早期発見に向けた課題を明らかにして、平成24年度事業報告書を作成した。 3. 医療機関を対象とした調査（平成25年） 管内医療機関に対して、結核診療に関するアンケート調査を行い、結核の診断過程の現状と早期発見に向けた課題を明らかにした。 4. 住民向け講演会（平成25年） 結核の早期発見に向け、住民自らの早期受診を促すための啓発を行った。 5. 早期診断支援ツール作成（平成26年） ツールP Tを設置し、検討、早期診断につながるツールを作成した。（別紙） 6. 医師向け講演会（平成26年） 診察をする上で結核を疑うポイントや検査方法等について説明し、診断支援ツールの普及を図った。 7. 「結核の早期発見に向けた地域づくり」事業報告書を作成（平成26年）
評価	1. 医師向け講演会 2回開催し、92名の参加があった。参加者からは、9割以上が「結核の早期診断について今後の診療や仕事上で活用できる」、「ツールについても診療で活用していきたい」と前向きな回答が得られた。 2. 今後の方向性 今年度で事業は終了となるが、事業目的は「結核の発見の遅れを改善」することであり、長期的に推移をみていく必要がある。今後は、地区医師会へ結核を含めた感染症関連情報をタイムリーに提供したり、診療所開設届時にツールを配布するなど、今回作成したツールや結核についての情報をより多くの医師へ周知していく。また、住民への普及啓発として、結核患者発生時の関係者等（特に結核は高齢者に多いため、高齢者に関わる福祉関係者）への指導強化、市や職域と連携し、定期健康診断の受診や有症状時の早期受診を促していく。
問い合わせ先	多摩府中保健所 保健対策課 感染症対策係 電話 042-362-2334 ファクシミリ 042-362-1938 E-mail S0000348@section.metro.tokyo.jp

肺結核の早期発見・早期診断に向けて

結核を疑う基準

- 咳嗽が2週間以上続く □ 市中肺炎の治療（1週間）で改善しない
 - 偶然撮った胸部レントゲン写真で結核が疑われる場合、症状が軽微か無症状
- ただし、結核と診断された方の40%には咳嗽・喀痰等の呼吸器症状を呈さない**

問診のポイント

症状

- 発熱 ■ 寝汗 ■ 体重減少
- 血痰 ■ 喀痰 ■ 嚔声
- 胸痛 ■ 息苦しさ ■ 食欲不振
- 倦怠感 ■ 咳嗽が軽減増悪を繰り返す

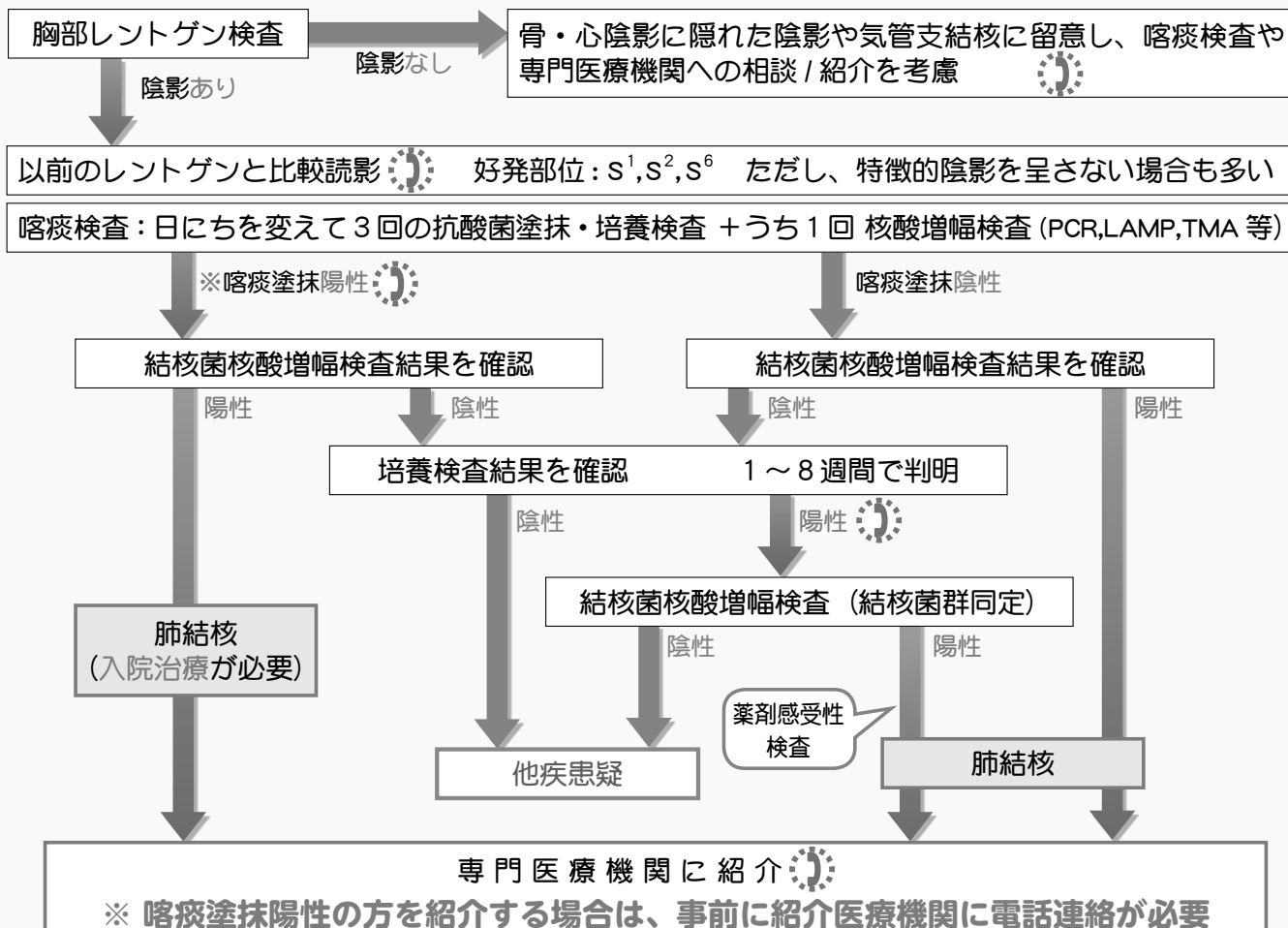
発病のリスクファクター

- コントロール不良の糖尿病 ■ 人工透析
- 免疫抑制剤使用（ステロイド経口/吸入を含む）
- 生物学的製剤使用 ■ 珪肺 ■ 胃切除
- 結核既往歴あり ■ 結核患者との接触歴あり
- 喫煙 ■ 低体重 ■ 高齢者 ■ 経済的弱者

診断の流れ

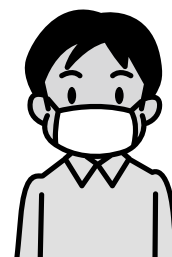
◎結核を疑い胸部レントゲン撮影と喀痰検査をすることが重要

☺ は専門医療機関に相談／紹介



喀痰塗抹検査 検体のとり方

- ・日にちを変えて3回、朝起床時の下気道由来の喀痰採取が望ましい
- ・塗抹検査は集菌法・蛍光染色を推奨
- ・喀痰塗抹検査と培養検査に加え、1回は結核菌核酸増幅検査のオーダーを



診断の Pitfall

- ① 陳旧性肺結核と診断し、活動性肺結核を否定してしまう
- ② 自然に、あるいは抗菌薬で臨床症状が改善したため肺結核を否定してしまう
- ③ 喘息や喘息の悪化と診断し、肺結核を否定してしまう
- ④ 典型的な症状や画像所見がないため、肺結核を否定してしまう
- ⑤ 年齢が若いからと肺結核を否定し、胸部レントゲン撮影を行わない



注意!

肺炎等の治療にニューキノロン系抗菌薬（LVFX、MFLX 等）を使用することで、結核の診断が遅れる例が散見されている

結核の届出

医師は、結核と診断した場合には「直ちに」最寄の保健所に届け出なければならない
届出用紙は東京都独自様式：東京都感染症情報センター HP からダウンロード可能
(東京都感染症情報センター <http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/survey/kobetsu>)

医療機関・相談窓口

※喀痰塗抹検査陽性の場合は、結核病床のある医療機関に相談・紹介をしてください

			電話番号 (代表)
結核病床 あり	東京都立多摩総合医療センター	呼吸器内科	042 - 323 - 5111
	独立行政法人国立病院機構東京病院	呼吸器内科	042 - 491 - 2111
	公益財団法人結核予防会複十字病院	呼吸器内科	042 - 491 - 4111
	東京慈恵会医科大学附属第三病院	呼吸器内科 (結核当番医)	03 - 3480 - 1151
外来のみ	杏林大学医学部付属病院	感染症科	0422 - 47 - 5511
	日本赤十字社東京都支部武蔵野赤十字病院	呼吸器内科	0422 - 32 - 3111
相談窓口	東京都多摩府中保健所	保健対策課感染症対策係	042 - 362 - 2334

作成メンバー：武蔵野市医師会・三鷹市医師会・府中市医師会・調布市医師会・小金井市医師会・狛江市医師会、公益財団法人結核予防会結核研究所・東京都立多摩総合医療センター・杏林大学医学部付属病院・日本赤十字社東京都支部武蔵野赤十字病院・東京慈恵会医科大学附属第三病院・東京都多摩府中保健所

事業のまとめ

